

| | | | | |
|-----------------------|---|------------------------------|-------------|---------|
| 授業科目 | 作業療法学総合演習 | 053319 | 単 位 | 1単位（30） |
| 開講学科等 | 作業療法学科 4年次 <集中> | | | |
| 担当教員 | 西野愛・金久雅史・辻美和・平松真奈美・大塚貴英・ 篠田かおり・石元美知子・有光一樹・笹村聡 | 実務経験のある教員による授業科目 | | ○ |
| 授業の目標 | 国家試験の科目であるので、国家試験合格を目指し学習する。 作業療法士になるうえでの必要な知識を習得する。 | | | |
| 授業の主題・ あらまし | | | | |
| 授 業 の 内 容 | | | | 担当教員 |
| 授 業 の 計 画 | 1 | 国家試験オリエンテーション | 西野・金久 大塚 | |
| | 2 | 評価法（セッション1～4） | 笹村・西野 | |
| | 3 | 関節リウマチ・整形外科疾患・義肢装具（セッション5～6） | 大塚・西野 | |
| | 4 | 精神障害（セッション7～12） | 西野・辻 | |
| | 5 | 脳血管障害（セッション13～15） | 有光・金久 | |
| | 6 | 神経変性・筋障害（セッション16） | 金久・有光 | |
| | 7 | 脊髄損傷（セッション17） | 石元・西野 | |
| | 8 | 内科学（セッション18～21） | 金久・西野 | |
| | 9 | 老年期障害（セッション22） | 辻・平松 | |
| | 10 | 小児科学・臨床心理学（セッション23） | 篠田・西野 | |
| | 11 | ADL（セッション24）・基礎 | 金久・西野 | |
| | 12 | 関節リウマチ・整形外科疾患（セッション25～26）・基礎 | 大塚・笹村 | |
| | 13 | 義肢装具（セッション27）・基礎 | 大塚・笹村 | |
| | 14 | 作業活動・作業療法概論（セッション28～29）・基礎 | 西野・平松 | |
| | 15 | 病理学 | 平松・金久 | |
| 授業の方法 | 講義・グループワーク（シェア学習）・討議 その他 | | | |
| テキスト | 配布資料 | | | |
| 参考文献 | クエスチョンバンク理学療法士作業療法士国家試験問題解説 メディックメディア他 | | | |
| 評価方法 | 試験（50%）自己分析レポート（50%） | | | |
| 履修上の 注意事項 | グループワークでは活発に討議し学習を深めること。各分野の担当教員に積極的に質問をして学習すること。 | | | |

| | | | | |
|-----------------------|--|--|-----|---------------|
| 授 業 科 目 | 卒業研究 | 053320 | 単 位 | 2 単 位 (6 0) |
| 開講学科等 | 作業療法学科 4 年次 <集中> | | | |
| 担 当 教 員 | 西野 愛・金久雅史・平松真奈美・大塚貴英・篠田かおり・石元美知子・有光一樹・笹村 聡 | 実務経験のある教員 による授業科目 | ○ | |
| 授業の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導の元で、研究するために必要な技術・知識を習得し、研究内容を論文として作成、および発表することができる。 ・これらの過程を通して、将来の研究活動への糸口を見つけることができる。 | | | |
| 授業の主題・あらまし | <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法に関する勉学に総まとめとして、各自が研究計画に基づいた研究活動を実践し、最終的に論文としてまとめる。 ・卒業研究発表会で発表する。 | | | |
| 授 業 の 計 画 | 1 | <p>研究題目：作業療法領域および関連領域に関する内容とする。 その設定においては、各担当教員と協議の上決定するものとする。</p> <p>授業内容：3 年次応用セミナーで収集したデータを基に行う。</p> <p>① 研究結果の整理・分析</p> <p>② 研究結果のまとめ・文章作成</p> <p>③ 発表</p> <p>④ 研究論文要約作成</p> <p>発表：発表時間 7 分・質疑応答 3 分とする。 発表用プレゼンテーション資料は、スライドショー形式とする。</p> <p>論文規定：</p> <p>① 論文構成は、原則として「はじめに」「方法」「結果」「考察」「結論」「文献」を含む。</p> <p>② 図（写真）・表の記載方法については、図（写真）に下に「図」、表の上に「表」と書き、タイトルをつける。図表は 1 枚以内とする。</p> <p>③ 文献は、本文の引用箇所の肩に番号を示し、本文原稿の最期に「文献」として記載する。</p> <p>④ 文献の記載方法は、日本作業療法士協会機関誌「作業療法」の規程に準ずる。</p> <p>⑤ 論文の要旨としてキーワードを 3 つ選び、テーマの欄に記載する。 キーワードは、作業療法士協会機関紙「作業療法」のキーワード表から選ぶ。</p> <p>⑥ 書式 ※ 書式の詳細については、別途資料を配付する。</p> | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | | | |
| | 13 | | | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| | 16 | | | |
| | 17 | | | |
| | 18 | | | |
| | 19 | | | |
| | 20 | | | |
| | 21 | | | |
| | 22 | | | |
| | 23 | | | |
| | 24 | | | |
| | 25 | | | |
| | 26 | | | |
| | 27 | | | |
| | 28 | | | |
| | 29 | | | |
| | 30 | | | |
| 授業の方法 | 演習 | | | |
| テキスト | 標準作業療法学専門分野 『作業療法研究法』医学書院、配付資料 | | | |
| 参考文献 | | | | |
| 評価方法 | 1, 研究論文 2, 発表 以上を総合して判定する。 | | | |
| 履修上の 注意事項 | 演習にともない、ノートパソコンを準備することが望ましい。 | | | |

| | | | | |
|-----------------------|---|----------------------|-----|-------------|
| 授 業 科 目 | 臨床実習Ⅱ | 053503 | 単 位 | 16 単位 (720) |
| 開講学科等 | 作業療法学科 4 年次 <前期> | | | |
| 担 当 教 員 | 西野 愛・金久雅史・辻 美和・平松真奈美・大塚貴英・ 篠田かおり・石元美知子・有光一樹・笹村 聡 | 実務経験のある教員 による授業科目 | | ○ |
| 授業の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士としての基本的態度をとることができる。 ・対象者の作業療法評価（情報収集、検査・測定、観察、結果の統合と解釈、解決すべき課題の列挙、作業療法プログラムの立案）を実施することができる。 ・対象者の作業療法プログラムに基づき、治療・指導・助言を実施することができる。 ・実施した内容を適切に記録・報告することができる。 ・作業療法の役割と機能を学び、今後進むべき方向を考えることができる。 | | | |
| 授業の主題・ あらまし | <ul style="list-style-type: none"> ・実践の場である実習施設にて、指導者の指導と助言を得ながら臨床場面において、対象者への作業療法評価、作業療法プログラムを行う。 ・実施した内容の記録、報告を行う。 ・チームにおける作業療法の役割を理解し、実践する。 | | | |
| 授 業 の 計 画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士の業務など実践内容を見学する。 2. 臨床実習指導者の指示に従い、指導者の助言を得ながら、対象者の作業療法評価ならびに治療計画の立案、具体的治療・援助・助言を行う。 3. 実施した内容についての記録および報告を行う。 4. 作業療法士としての管理・運営について学ぶ。 5. 能動的な学習を行う。 6. 「臨床実習手帳」に基づいて行う。 7. 5～9 月までの間に、「学生配置表」に定めた実習施設・病院にて、9 週間ずつ 2 施設で行う。 8. 上記期間前にオリエンテーションを行う。 9. 実習終了後に、反省会と症例学習（ケース・スタディー）発表会を行う。 10. 実習終了後に、実習判定試験を実施する。 | | | |
| 授業の方法 | 実習 | | | |
| テキスト | 臨床実習手帳 | | | |
| 参考文献 | これまでの履修科目で使用したテキスト、配付資料など | | | |
| 評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習Ⅱ評価表 2. 臨床実習Ⅱ日誌（デイリーノート） 3. 症例発表レジュメ作成と発表 4. 実習判定試験 <p>以上を総合して判定する。</p> | | | |
| 履修上の 注意事項 | 学内において行う、臨床実習Ⅱ開始前のオリエンテーションならびに、終了後の症例学習会に出席すること。 | | | |